

学校名	武雄市立武内小学校
-----	-----------

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な学び・協働的な学びの実現のために、職員全員が年間を通して計画的に自分ごととして授業改善に取り組むことができた。今後は児童が自分の学びを振り返り、学習を深めることができるように「武内小振り返りシート」を作成し全校で取り組みたい。</li> <li>児童の自他を大切にすることを育てるために今年度も取り組みを重ねてきたが、児童同士のトラブルの原因として言葉遣いが挙げられることが多かった。次年度は、人間関係を豊かにする取り組みを充実させる。</li> <li>健康・体づくり「望ましい生活習慣の形成」については課題が見られた。特に、夜のゲームやユーチューブ視聴時間が児童の睡眠時間に大きな影響を与えている。育友会と共に、保護者への啓発と児童の自己管理能力を高めるための対策が必要である。</li> </ul>
---------------	--

2 学校教育目標	学校大すき・友だち大すき・ふるさと大すき 武内っ子 ～自他を大切に、主体的に課題解決できる子ども～
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個別最適な学び・協働的な学びの実現を目指し、学習者として自立した児童を育成するために、指導方法や指導体制の工夫改善を進める。</li> <li>②一人ひとりが大切にされる学級、全ての子どもの承認欲求が満たされる学級づくりを推進する。</li> <li>③児童の望ましい生活習慣の形成を図るために、保護者への啓発と児童の自己管理能力を高める。</li> <li>④教員の資質向上と業務改善を両立させ、質の高い持続可能な教育活動を推進する。</li> </ul>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○単元テスト(主要4教科)の学級の平均点、80点以上。 ○年度末の学習アンケートにおいて「電子黒板やタブレットを使った授業は分かりやすい」と回答した児童85%以上。	・学力向上対策委員会において各学年の課題を明らかにすることで、全職員で解決すべき課題について共通理解できるようにする。 ・基礎基本の定着を目指し、ICTを活用した分かりやすい授業実践を行い、家庭学習におけるタブレットリルの活用を推進する。	A	・全校で朝の読書時間を新たに設定し、読解力の向上に努めた。 ・単元テスト(主要4教科)の学級の平均点、80点以上という成果指標はおおむね達成できた。学年によっては国語・算数に課題が見られた。 ・全学年が使えるデジタル教材置き場を設置し、家庭でも基礎基本の学習に取り組めるようにした。また、学校評価下期児童アンケートにおいて「電子黒板やタブレットを使った授業は分かりやすい」と肯定的な回答した児童は99%であり成果が見られた。	A	・アンケート結果より、ICTを使った授業が分かりやすいと児童が思っている。教職員や保護者も同様で90%以上が肯定的な回答をしている。 ・読解力の向上を目指した取り組みを行ったが、国語に課題が残るのは残念。
	○自ら学び方を選択し、友達と協働しながら深く考える児童の育成	○年度末の学習アンケートにおいて、「自分で学び方を選んで学習したり、友だちの考えを見聞きたりして、自分の考えを深めることができていた」と回答した児童が80%以上。 ○年度末の教職員アンケートにおいて、「振り返りシートの活用によって児童の考えに深まりが見られた」と回答した教職員85%以上。	・校内研において、「自分で学び方を選択し、友だちと協働しながら深く考える児童の育成」を目指し、協働的な学びについての単元開発を行い、実践する。 ・児童が自分の考えを深めるための振り返りシート(武内モデル)を提案し、年間を通して各学年で実践する。	A	・12月の授業公開では、各学年での実践を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業を提案することができた。 ・学校評価下期教職員アンケートは成果指標に届かなかったが、下期児童アンケートでは、「自分で学び方を選んで学習したり、友だちの考えを見たり聞いたりして、自分の考えを深めることができていた」と肯定的な回答した児童が96%で、成果指標の80%を大幅に超えた。	A	・児童アンケートの結果、肯定的な回答が96%にのぼったのは素晴らしい。 ・教職員アンケートでは肯定的な回答が67%にとどまり成果指標に届かなかった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいると回答する児童85%以上。	・青空教室やクリーンタイムをはじめとする縦割り班活動の振り返りに認め合いを取り入れ、その一部をMVPカードに書いて掲示したり、活動の様子を写真で掲示したりすることで自分や友だちのよさを見つけ、互いを大切にする心を育てる機会をつくる。	A	・学校評価下期児童アンケート「自分や友達を大切にしながら、学級活動や委員会活動、縦割り班活動に積極的に取り組んでいる」と肯定的な回答する児童95%。縦割り班活動を中心に、児童会活動や人権同和教育においても自他を認め合う活動に継続的に取り組んだことにより、一定の成果を得ていると考えられる。	A	・児童・保護者・教職員アンケートで多くの肯定的回答を得ている。今後の人生において心の教育はとても大事。自分や友達を大切にしながら活動している様子が見られる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●いじめ未然防止、早期発見、早期対応のために組織的対応ができていると回答する教職員85%以上。	・毎週の連絡会の気になる児童の報告会、教育相談旬間後の共通理解の場を通して、各学級の気になる児童への対応や支援を教職員全員で行うようにする。 ・ケース会議を必要に応じて開催する。	B	・学校評価教職員アンケート「いじめ未然防止、早期発見、早期対応のために組織的対応ができている」と肯定的な回答する教職員100%を達成しており、教職員の意識は高い。しかし、学校評価児童アンケート「困ったときや心配事があった時は先生や友達に話している」と否定的な回答をしている児童が20%前後であり、先生や友達に相談できていない児童の実態がある。このことから、教育相談旬間において、問題行動が表立らない児童に対しても、ゆっくり話を聞く時間を今後も設定し、必要に応じて保護者との連携を密にした。	A	・アンケート結果から、教職員は対応していると回答しているが、児童の中には相談できていない児童がいることは心配だ。保護者も児童の話聞くことが大事。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童70%以上。	・教育相談旬間において児童一人一人の声を傾け自己肯定感や自己有用感が高まるように支援していく。 ・各学年における教育活動において、キャリアパスポートを通して目標を持って活動に取り組ませ、今後の自分の成長に期待を持ってよう振り返りを行う。	A	・学校評価下期児童アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と肯定的な回答をした児童が1学期に比べて、7%減少している一方、「将来の夢や希望をもっている」と肯定的な回答をした児童は、6%増加している。児童は自己肯定感の向上は認められるものの、承認欲求が高いことが推測される。	A	・ほめて伸ばすのが効果的。 ・児童アンケートでは、上期に比べて「将来の夢や希望をもっている」に対して「そう思う」と答えた児童だけでみると18%減っているのが不安である。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●学校生活5か条・家庭生活3か条の項目を守っていると回答する児童90%以上。 ●自主的に健康な体づくりに取り組んでいる児童及び、家庭でのゲーム・テレビ時間を自己管理できている児童80%以上。	・月末に学校生活5か条、家庭生活3か条を守っているか振り返り、翌月の生活に生かすように声かけをする。 ・テレビ・ゲームのマイルールを作成を各家庭にお願いをし、学校と保護者が一体になって活動を進めていくことができるようにする。 ・保健だよりを毎月発行し、生活習慣に関わることや病気に関することの周知を図る。	B	・学校評価下期児童アンケート「学校生活5か条、家庭生活3か条を守って生活することができる」と肯定的な回答をした児童が92%だった。また、「家庭でのテレビ・ゲームの時間を守ることができている」と肯定的な回答をした児童が74%で、7月から比べると約4%減少した。これに対して、これらの取り組みに対する保護者の回答は7月に比べると肯定的な回答が増えた。そのため児童と保護者の間に認識のズレが生じていると推察できる。保護者をより巻き込むことのできる発信を来年度以降心がけていきたい。	B	・早寝・早起き・朝ごはんが一番大事。 ・テレビ・ゲームのことは家庭の問題であると思う。 ・児童アンケートでは、上期に比べて「家庭でのテレビ・ゲームの時間を守ることができている」に対して「できている」と答えた児童だけでみると10%減っているのが問題である。
	○ふるさと武内における防災教育の推進	○学期初めの通学路点検や毎月の安全点検、防災に関する研修会や各種避難訓練を効果的に実施し、有事の時に「自分の判断で動ける」と答えた教職員100%。	・年3回の校区内巡視を実施し、校区の危険箇所を職員で共通理解を図る。 ・予告ありの避難訓練だけでなく、予告なしの避難訓練(児童に対して)を実施し、常に危機管理を高めることができるようにする。	A	・学校評価教職員アンケート「防災に関する研修会や各種避難訓練に関わり、有事の時に自分の役割を認識している」と肯定的な回答をした教職員が100%だった。 ・火災・地震・原子力の避難訓練(11月)や予告なしの不審者対応避難訓練(11月)を実施した。今年度の反省を次年度の提案に反映していく。	A	・訓練をしているといざという時に素早く動ける。 ・保護者・教職員アンケートも良い結果であった。 ・町内通学路に事故の危険性が高いところがある。区長会でも市に要望を出し続けた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●時間外在校等時間が月平均40時間を下回る教職員85%以上。	・毎日18時の退勤促進。毎月個別の時間外在校等時間の集計を提示し、教職員のタイムマネジメントへの意識を高める。 ・学校行事等を中心に業務の見直しを図る。	B	・9月から12月までの間で、時間外在校等時間月平均40時間を下回る教職員が76%と目標値を下回った。 ・学校評価下期教職員アンケート「個人や学校として業務改善に取り組み、教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間を下回ることができた」と、あまりできていないと回答した教職員が44%。上期より減少してはいるが、各部署からの業務見直し提案を基に、来年度に向けてますますの改善を推進したい。	B	・教職員に負担をかけすぎるのはよくない。 ・業務の効率化をどうとらえるか。教職員アンケート結果から、7月より12月は少く改善がみられるが、学校だけでは限界があると感じている。
●特別支援教育の充実	○支援を必要とする児童の支援体制の充実	○特別支援教育に関する専門的な知識や支援方法が向上したと回答する教職員85%以上。	・特別支援教育に関する研修会を年4回開催する。 ・必要に応じてケース会議を開催し全体に共有する。 ・特別支援だよりを発行し、保護者への啓発活動をする。 ・特別支援学級の授業参観・研究会を行う。	A	・「特別支援教育に関する専門的な知識や支援方法が向上した」と肯定的な回答する教職員のうち「よくできている」と回答する教職員の割合が増加している。定期的に教育支援システムの活用を推進したり、特別支援だよりを発行したりしたことが、特別支援に対する関心の高まりと、専門的な知識の向上につながったと考ええる。保護者の満足度も向上してきているため来年度以降もより一層の啓発活動に取り組んでいきたい。	A	・教職員アンケートでは、「よくできている」の比率が増えている。保護者アンケートでも高い評価を得ている。今後さらに特別支援教育の充実を推進し理解を深めてほしい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
◎志を高める教育	○地域・家庭との連携を充実させ、自他を大切に自己肯定感を育む教育活動の推進	○総合的な学習の時間、特別活動等の学習活動を通して、自己肯定感や達成感をもてた児童を80%以上。	・各学年の教育課程において、地域や家庭とのつながりを生かした学習を取り入れる。 ・学習のふりかえりを充実させ、学習による自分の成長や達成感を実感できるようにする。	A	・学校評価下期児童アンケートでは、「自分にはいいところがあると思う」と肯定的な回答をした児童は83%であった。今後も、学習後の振り返りを充実させ、自分の成長や達成感を実感させていきたい。	A	・児童アンケートでは、83%の児童が「自分にはいいところがあると思う」と答えている。そう言える環境をつくってほしい。下期は上期に比べて「そう思う」と答えた児童の割合が減っているのが心配だ。
○地域連携による学校教育充実	○地域の中での学校の良さを生かした「花まるタイム」の推進 ○地域の人のつながりを感じ、郷土を愛する心の育成	○地域の方や官民一体型学校のよさを活用して、児童が生き生きと学習できる環境をつくる。 ○花まるタイムの取り組みについて肯定的な回答をする教職員と児童75%以上。	・花まるタイムの年間計画に基づいた計画的な実施。 ・武内公民館と連携した花まるタイムへの地域の方による参加の啓発。 ・地域の方をGTとした学習を積極的に取り入れ、教育活動の充実を図る。	B	・地域や家庭とのつながりを意識した学習を計画し、地域協働本部と連携して行うことができた。 ・花まるタイムの実施日を保護者へも知らせているが保護者の参加数は昨年度よりも数値増えた程度。共働き世帯増加の影響もあり、今後も期待は難しい。来年度は授業参観等で花まるタイムを参観していただくなどの工夫を積極的に取り入れたい。	A	・花まるタイムはとてもよい取り組み。40代50代の方が参加できるように、休日開催を検討してほしい。 ・花まるタイム支援については、各地域の中で、声掛けがなされることが大事。 ・花まるタイムの効果をさらに、授業参観で保護者に見てほしい。

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度からの「個別最適で協働的な学び」については、教職員一丸となって取り組むことができた。より深い学びをめざして取り組んだ振り返りシートも一定の効果を得た。</li> <li>いじめ未然防止、早期発見、早期対応については昨年度以上に素早く丁寧な組織的対応ができた。その反面、心配事を相談できていない児童もいることから、次年度は相談しやすい環境をどうつくっていくかを議論し、実行する必要がある。</li> <li>「望ましい生活習慣の形成」については、令和3年度から本校の課題としている。次年度は開校150周年を迎え、地域や育友会の方と協力する場面を生かして、ますますの啓発を目指したい。</li> </ul>
----------------	---